

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	上野 俊一
5-2	施策名	景観の良い住環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、地域開発課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象		対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
市民		①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
				実績値	41,278	40,483	39,692			
				見込値						
				実績値						
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
目的	住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。	①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合	%	目標値	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	
				実績値	45.8	44.8	49.3			
		②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)	件	目標値	20	50	70	90	110	
				実績値	33	65	95			
		③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合	%	目標値	63.0	63.5	64.0	64.5	65.0	
				実績値	48.2	43.8	43.3			
		④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)	件	目標値	30	40	50	60	70	
				実績値	8	18	30			
		目標値								
		実績値								
成果指標設定の考え方	施策の対象である市民の対象指標は、「①桜川市人口」とする。施策の意図である「住環境の維持と景観の向上が図られ、空き家が利活用されている。」の成果指標は、「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」「②定住支援事業の支援件数」「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」とする。									
成果指標の把握方法と算定式等	対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合、③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、市民アンケートより求める。②定住支援事業の支援件数(5カ年累計)は、事業実績数より求める。④景観や空き家に関する利活用の相談件数(5カ年累計)は、実績件数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」は、前年度44.8%に対し、本年度49.3%で4.5ポイント向上した。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区51.7%、真壁地区46.2%、大和地区51.6%となっている。岩瀬・大和地区に比べ、真壁地区の値が低いのは、桜川市バス(ヤマザクラGO)が平成29年度中に運行が開始されたが、JR駅がないこと等、公共交通の脆弱性について今までのイメージに起因するものと考えられる。</p> <p>「②定住支援事業の支援件数」は、前年度32件に対し本年度30件と少し下回ったが、予定目標をかなり上回った。平成27年度より開始した定住促進助成金制度が、確実に浸透したものと考えられる。</p> <p>「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」は、前年度43.8%に対し、本年度は43.3%で0.5ポイント低下した。旧町村別割合を見ると、岩瀬地区40.5%、真壁地区46.2%、大和地区44.1%となっている。真壁地区の値が、他地区より高いのは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひな祭りについて、マスメディアに多数取り上げられたためと考えられる。</p> <p>「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」は、前年度10件に対し、本年度12件と2件増加し上向きの傾向である。空き家利活用のための空き家バンクが少しずつ浸透している傾向ではあるが低水準である。</p> <p>③については市民アンケートの結果では少し低下し、②についても2件低下しているが予算が同額であり、目標値を上回っている。また、①④については前年度より向上している。これらを総合的に判断すると、低下している実績値もあるが①②④については、前年度より向上したことから、成果がどちらかといえば向上したと評価した。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<p>「①今後も桜川市に住んでいくために住みやすい住環境であると感じる市民の割合」は、目標値63.0%に対し、実績値が49.3%で13.7ポイント下回った。</p> <p>「②定住支援事業の支援件数」は、目標値70件に対し、実績値が95件と25ポイント上回った。</p> <p>「③地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合」は、目標値64.0%に対し、実績値が43.3%と20.7ポイント下回った。</p> <p>「④景観や空き家に関する利活用の相談件数」は、目標値50件に対し、実績値が30件と20ポイント下回った。</p> <p>①については市民アンケートにて向上したが、③の成果については少し低下したが、市民アンケートによるものであり、若干の低下はやむを得ないと判断する。②については大幅に目標を上回っており、また重要な指標のため、3つで目標を下回っているが、一部の成果指標で目標を上回ったと評価した。</p>		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>令和元年度最も成果があった事業が、平成27年度より開始した定住促進助成金制度であり、確実に浸透し、前年度同額の予算執行を行い定住促進事業が定着してきた。</p> <p>家賃徴収事務については、過年度分について生活保護者、死亡者等回収の見込みのない債権について放棄を行い、不能欠損を行った。</p> <p>伝統的建造物群保存地区審議会運営事業については、伝統地区内の現状変更等に対して専門的知見や住民意見を反映させることができた。</p> <p>伝統的建造物群保存地区保存事業については、個人の財産に対する修理・修景工事に係る事業費に対し、間接補助事業を主として行っているため、行政の役割にはおのずから制限はあるが、その範囲内で適切に事業を進めることができた。</p> <p>地区の特性を生かした景観が維持・向上されていると感じた市民の割合は、目標値を下回っているものの、真壁地区では目標値に近づいた値となっている。これは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることや、真壁のひな祭り等について、マスメディアに多数取り上げられているためと考えられる。</p>	<p>定住促進については、令和2年度までの事業となっており、次年度以降の継続、対象者の拡充、金額の検討を行い、要綱を見直す必要がある。</p> <p>家賃徴収事務については、家賃納入の推進、収納向上を目指し、滞納者に対しては引き続き法的手段を視野に入れて指導を行っていく。</p> <p>伝統的建造物群保存地区審議会運営事業、伝統的建造物群保存地区保存事業、歴史的風致形成建造物修理事業については、審議会に諮りながら修理・修景工事を行い、景観の維持・向上を図っていくことが重要である。</p> <p>しかしながら、個人財産がほとんどであるため、個人の理解・協力が必要となる。</p>